

平成21年 第6回幹事会議事録

日時：平成21年10月21日（水）午後6時30分～8時00分

*場所：東京知事会 西日暮里事務所

*議題

- (1) 平成22年度総会「同窓の集い」担当学年（56年卒）からの報告及び総括
- (2) 9月19日（土）東京知事会顧問会議の報告・・・主に終身会費について・・・
- (3) 各委員会（企画、組織、財務、会報）からの報告
- (4) その他

●参加者：18名

高橋幸子（29）、海老根宏（36）、羽持良三（37）、小岩井忠道（39）、小貫裕文（40）、佐渡本真理子（41）、助川裕（42）、植村滋（43）、檜山雅頭（44）、谷田海孝男（46）、江幡秀則（47）、門馬俊光（47）、畑岡洋二（53）、笹嶋正（54）、三ツ石浩（55）、保坂健司（55）、石井健司（56）、坂下力（56）（敬称略）

● 議題報告

1. 平成22年度総会「同窓の集い」担当学年（56年卒）からの報告及び総括

坂下力氏（56）より

①活動経緯（前回報告後）

H21/8/22 第4回学年幹事会開催（13名）

- ・ 講演内容、水戸からのバス便、幹事用 ML、名簿の最終配布方法等につき検討
- ・ 過去の会費・会計内容等につき情報共有

9/27 第5回学年幹事会開催（17名）

- ・ 講演は堀義人（グロービス社長）1名で
- ・ 会費（案）：一般@8,000-、学生 @2,000-、S57年クローク係@2,000-
- ・ 水戸からのバス便は出さず、恩師にお車代で対応@10,000-（片岡先生@30,000-）

10/15 同期に「H22/2 同窓の集い」プレ案内 DM 発送 352名（学年幹事役 20名は発送対象外）

- ・ 同封物：呼掛文（石井）、東京知事会会報（H21/8号）、同期ブログのログイン方法

②項目別進捗状況等

(1) S56年卒名簿整備状況

- ・ 母数 403名（既にプレ同期会郵便到着者 318名は、連絡可能であることを確認済）
→ 知事会名簿（H19年度版）現所在不明者等（約 30名）を同期ブログで探索開始
- ・ 同期会（H22/2）出席意向表明者約 100名→クラス同窓会により意識高揚中（33,34,36,38組）

(2) 講演の部（本日決済いただきたい事項）

- ・ 講師は堀義人（グロービス社長）1名にて対応。
- ・ （仮題）「停学の高校時代から日本屈指の経営大学院を創るまで」
- ・ ある水戸一高生の起業ストーリーを通して、原点である高校時代と起業に関し本音を語る。
- ・ 当人も若手・中堅 OB/OG の集客を凶るとのこと。

★幹事学年から講師を出すことが数年続いているが、検討が必要ではとの意見もある。
今年、堀氏に決定した。

(3) 「同窓の集い」会費（本日決済いただきたい事項）

- ・ 一般@8,000-、学生@2,000- → 従来通り
- ・ ただし、S57年クローク係に限り@2,000- → 今回改定。コスト・ベネフィットのアンバランスを修正

★クローク係りは学生同様@2,000-で了承された。

(4) 恩師の交通手段（本日も相談したい事項）

- ・ 水戸からのバス便は出さず、恩師にお車代で対応@10,000-（片岡先生@30,000-）
- ・ ネット支出総額は従来並と予想されるが、お車代が実費以上となるケースも容認できるか。

★バス利用者を集めることも必要になるので、今回はバス便なし、車代も了承された。

(5) 懇親の部（本日も相談したい事項）

- ・懇親の部において、映画「桜田門外の変」のPRを行っても差し支えないか。
→ 橘川（学年代表幹事、茨城県庁職員）より依頼あり。

★了承された。

(6) 同期ブログ（本日も相談したい事項）

- ・「同窓の集い」・同期会の情宜と参加意識高揚のため有料ブログ（約1万円/年）を立ち上げ済み。
- ・初年度の料金を「同窓の集い」の収入から支弁しても差し支えないか。

★学年同窓会の会費で処理することで了承された。

2. 9月19日（土）東京知道会顧問会議の報告

小岩井会長より

顧問会議の内容は下記の通りだが、近い内に役員だけで集まり、今後の会費の使い方等話し合いたいと思う。今のままでは資金を使い切ってしまう時が来る。

事務所をどうするか、会報のネット配信、5年会費を払わない人には会報を送る事をやめる等論議する。

1) 平成21年度の収支予想

- ・ 年会費予想 2500000円（会費0の終身会費納入者222人）前年比△47万円
- ・ 当期収支 昨年とおりの支出とすると△80万円となる。

2) 今後の対策

今年度から、会費0の方が急増するため、事業収支が大幅な赤字となる。

会の活動を継続するため、下記の対策を実施するものとする。

- ① 平成22年度からの終身会費制度の廃止。（特別委員会より答申され第四回幹事会で承認）
- ② 山見基金を、企画委員会行事に利用する。（特別委員会より答申され第四回幹事会で承認）
- ③ 基本財産の一般会計への支出
 - ・ 東京知道会基本財産管理運用規定第6条により、常任理事会での承認
 - ・ 東京知道会基本財産管理運用規定第7条により平成22年2月の総会承認事項

◎「顧問会議概要」

出席者 最高顧問 山本定男
 名誉副会長 手塚誠光、八木實
 顧問 藤田一幸、福富啓爾、小川厚一、鶴谷敏明、稲野辺敬義
 現役員 高橋幸子、丹佐迦生、羽持良三、小岩井忠道、小貫裕文、植村滋、谷田海孝男
 場所 日本プレスセンター9階 日本記者クラブ大会議室

○顧問の方々からの意見概要

▽基本財産取り崩しについて

A氏

努力はしなければならないが、多少の赤字は基本財産を使ってやればよい。何かの時の基金でもあるのだから。これだけ金利が安い時期が続くと、何がしかの基金を持っているどんな組織もやっけていけなくなってしまっている。数年たてば世の中も変わる。今が一番苦しいところ、どうやって乗り切るか会長以下の役割だ。この組織は利益を追求するような組織ではない。会の潤滑油である会報を減らしていくとか、事務所をなくそうとかいう縮こまるやり方ではない方法を考えるべきだ。

B氏（欠席のため文書によるご意見）

理想と現実とは常に相克するのが世の常。十分論議を尽くされて最善の案となることを祈る。会発展の方向を見失わない限り、柔軟に対処したらよい。

C氏

会費を払ってもらおう努力は何をしたのか。基本財産を初めて取り崩すと言うのだから、最初が肝心。ずるずる行ってしまったら駄目だ。年寄りが言っても駄目。その時代の人間が考えないと。

D氏

年寄り若く若い人の考え方が違うのは当然だが、会の運営は単年度の決算で賄うのが基本。どうしても賄えなければ基本財産に手をつけるのもやむをえないが、ずっと1200人くらいの方が会費を納めてくれていた。最近水戸へ戻る同窓生達も増えているらしいから会費を集めるのも昔より困難かと思う。しかし、年会費を納めてもらう努力を先輩達は続けてきた。努力は続けて欲しい。何も努力をしないで取り崩すというのは疑問だ。基本財産を取り崩して30年くらいは持つかもしれないが、ではその先に何かがあるか幹事会で検討してもらおうことも必要ではないか。基本財産はここ

に居られる先輩方が一生懸命やって集めてきたわけだから、年会費で賄いきれなくなったから、という新たな目的で再び基金集めを考えてもいい。

E氏

経常収支をプラマイゼロにするのは収入を増やすか支出を減らすしかない。収入を増やすのは難しいと思う。私の関係している会で、終身会費制をとっているが、途中から終身会費を払った人も会費を納めることに改めた。それも一つの方法だ。会費を増やす為に催促状を出してもその効果はなかなか難しい。支出に関しては、会報を減らすのはなかなか難しいだろう。もう一つ支出で大きいのは事務所だが、現状の事務所を維持する必要があるかどうか、どのように活用されているのかわかるか賃借料に見合う使いかたしているか、検討する必要があると思う。もし、賃借料に見合う使い方かしていないという事になれば、事務所が必要かどうかも含め検討する必要がある。そのような検討をした後、基本財産に手をつけるかどうかを検討するのが順序だと思う。(今の事務所は必要ということなら)、基本財産に手をつけるということしかない。基金集めをもう一度やれといっても無理。事務所を持つということ集めたのであって、二度と集められない。基金を再度集めるというなら、むしろ年会費の増額を考えるべきだ。

F氏 (欠席のため文書によるご意見)

何らかの方向性を決めなければならない時期だろう。提供された方々の意思を尊重しながらどんな方策が良いか、皆様の討議の中で必ず良い結論が導かれることと思う。

G氏 (欠席のため文書によるご意見)

基本財産の措置については、母校創立130周年記念に寄付行為を提案したが(幹事会)出席者全員の否決を受けた。科学的根拠を示されず、未だ合点がゆかずにいる。年会費の不足分補填と称し基本財産を取り崩すなどの言動は厳に慎み、主旨を深く思料して欲しい。会の運営については、先達がなされてきた原理原則、即ち「入るを画り、出ざるを制す」という持続的行動を切望する。なお、現会長が決断を下したら、従うは組織人として当然の理だ。

H氏

前にも金で行き詰ったことがあり、その時にも(そうした場合は)基本財産を一般会計に入れてもよいということになっている。

I氏

基本財産を作る時の話は単純に言えば、活動員ゼロ、お金もゼロ。この企画を言い出した人間だけでやった。いったん集めたものを崩したら、二度と集まらない。もう一度(金集めを)やればいい。前に払っていない人たちに出してもらえばよい。最初から諦めてしまっただろうしようもない。使うことより集めることを考えたかどうか。その場合、学年幹事に任せても動かない。学年幹事を束ねる人間が大事。そういう人間が1人いれば何とかなる。

J氏

結論から言うと基金の取り崩しは良いと思う。マンションを買うということで始まったと思うが、マンションを買うメリットがないということになったとなれば、もともと会の存続の為だったのだから、会が先細りになるより使ったほうが良い。

▽ 終身会費について

D氏

終身会費はわれわれが始めたのだが、導入する時、遅れて支払う人に1年ごと3000円ずつ減額するという仕組みにしたのはまずかった。

▽ 総会のあり方について

D氏

総会担当学年幹事制が始まった時は、総会の金は全部会で握っていた。会費はいったん会に入れ経費は会から払った。そのために総会が終わってから担当学年幹事に対し、2次会のためにと5万円を会長から渡し、次年度の担当学年に3万円渡している。総会の収支で足りなくなった場合は会が払っていた。もし、担当学年に会計を任せるならこの8万円は出す必要はない。また、足りなくなった時はどうするのか。総会の費用は足りなくなったら会が払うし、余ったら会に入れるということをしちつと決めておくべきだ。講演の講師は人寄せパンダのようなもので、立派な人を選んで来た。いまそうではないということではないが・・・。だから同窓生ではない竹内均・東大教授や下妻中卒の江戸英雄さんなどにも講師として来てもらったこともある。

C氏

総会の会計は、担当学年幹事の責任になっているのか?

講師は毎年、いろいろな人が出てきたほうがいい。担当学年幹事が（講師選定の）責任を負うのはおかしい。（幹事会として）無責任だ。

J氏

前から思っていたのは総会の担当幹事の関係だが、われわれの時は全部自弁でやった。2次会もバスも自弁だ。今どうなっているか分からんが、総会担当幹事の役割をきちっと前もって決めておくことが必要ではないか。2次会の費用のことや、さらに担当幹事が終わったら少なくとも2人程度は委員会の委員に出してもらおうこと。（総会担当学年にも出来るだけ大勢）年会費を払ってもらおうといったことは非常に大事なことだ。箇条書きにしてでも前もって総会担当学年幹事に渡しておけば、学年幹事も対応がしやすいのではないか。

K氏（欠席のため文書によるご意見）

総会の会計が（総会担当学年幹事に任せる）特別会計とする前提であれば、もし万一、赤字になった時の補填を考慮する必要があると思われる。また、先輩諸氏からの篤志無しで、全額総会会費で賄うこととすべきであろう。

▽ その他、会活動全般について

A氏

とにかく同窓会は夢のあるものでなければならない。縮こまるのはよくない。

C氏

会報を読むと50歳前の時期に総会・同窓の集いの幹事をやらせてもらったことに対する感謝の声が多い。高校出てから全員で集まるような機会を人生で一度、与えてもらってうれしい、ということだろう。日本民族の精神、和というものの良さをこの会に入れて、この会をぜひ継続させてほしい。この会で若い人も教育してほしい。そうでないと日本がおかしくなってしまう。自己中心の人間が多くて、外を歩くのが怖いような社会になってしまった。こんな世の中を水戸から変えるくらいの気持ちでやってもらいたい。地方の高校でこんな活動しているところいくつあるか。その上あれだけの会報出している高校、日本にどれだけあるか。「そういう幸せなところに入って贅沢いな」とは若い人に言えないから（笑い）、「あなたたちは恵まれているんだよ」ということを自覚させる方法を考えてほしい。例えばあの会報がなければこれだけの組織にはならなかっただろう。こんな幸せな会に入っているということ、どうしたら分からせられるか。自分が幸せな人は、それが分からん。分からせないと駄目だ。

民主党と同じで今年がスタートの年だ、と考えて頑張ってもらいたい。この会があることがいかに幸せか、皆に周知してほしい。

D氏

東京地道会がすばらしいことの一つは、幹事会（開催）に（会からの）金を使っていないことだ。人を集める努力、人を集めて年会費を集める努力をもう一度やったらどうか。企画委員にだけ任せただけでなく学年幹事などの手も借りて、それぞれの企画に新しい人を集める努力をしてみる必要があるのではないか。そうでないと先細りでどうにもならない。運動部や文化サークルの組織を使い各々が連携を取り合うなど、人を集める努力をできないか。

L氏

若い人の気質はだいぶ違っている。現執行部の努力はよく分かる。対応には感心しているが、いつも問題は若い人だ。若い人をどうするかに絞って進めてもらったほうがよい。

3. 各委員会（企画、組織、財務、会報）からの報告

① 企画委員会…江幡委員長からの報告

i) 8月29日(土)「夏休み企画」大宮でJR鉄道関連施設見学を実施しました
普段体験できない運転等を体験し、子供だけでなく大人も楽しめました。

参加者 大人 61名 子供 17名

会計報告

収入	会費	91,500円 (@1500円 x61人)		
	寄付	20,000円 (小岩井会長 10,000円、丹副会長 10,000円)		
	繰越金	12,931円	合計	124,431円
支出	弁当	105,090円 (@1,130円 x95個)		
	飲料	20,660円	傷害保険	4,000円
	記念品	18,600円	土産	3,937円
			合計	152,287円
残金		-27,856円 (基金より補填)		

- ※ 弁当・飲料は鉄道訓練センターのスタッフ、JR ちどう会のスタッフ分を含む
- ※ 記念品として小学生以下の子供さんへ鉄道関連玩具を提供

ii) 10月25日(日)「筑波山登山」実施します。

参加予定 大人 26名 子供 3名

スケジュール

- | | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 1. 健脚コース | 2. 楽々コース |
| 集合 8:50 つくばセンターバスターミナル | 9:50 |
| 出発 9:00 | 10:00 |
| 登山開始(筑波山神社) 10:00 | つつじヶ丘到着 10:50 |
| 山頂到着 12:00 | 山頂(ロープウェイ) 11:30 |
| | 下山(ケーブル) 12:20 |
| | 江戸屋到着 12:30 |
| 江戸屋到着後 | 大広間集合後温泉入浴(～13:30) |
| | 昼食 13:00～15:00(江戸屋大女将によるガマの油売り口上公演) |
| 筑波山神社前出発 | 15:40 |
| 解散(つくばセンターバスターミナル) | 16:20 |
- 参加費 2,000円(昼食代) 交通費は各自ご負担願います
 ※茨城県人会より4万円の研修費がでます

② 会報委員会…畑岡委員長からの報告

載せてほしい情報がありましたらお知らせ下さい。

会報#68(案) 発行予定:1月20日頃

- 1頁 会長挨拶、筑波山歩く会報告、同窓の集い案内(1)
 - 2頁 先輩訪問 東京モノレール社長 中村弘之(S45) 予定
 - 3頁 あの人この人・平成卒いらっしやい(JR 東日本特集)
 - ①川野邊 S48 ②深谷聖治 S48 ③大内敦 S57 ④肥塚知成 S60
 - 4頁 ⑤三宅俊造 S61 ⑥田尻知之 H1 ⑦大塚隆人 H7 ⑧砂押宇意子 H10
 - 5頁 ⑨飯村吉典 H11 ⑩青木知洋 H11 ⑪廣瀬裕一 H12 ⑫伊東恵 H13
 - 6頁 夏休み「鉄道訓練体験会」報告 体験文
筑波山歩く会体験文
同期会報告(27年、29年、42年等)
 - 7頁 第61回歩く会報告
国際物理オリンピック(知道会報既報)
OB 歩く会報告
秋のゴルフコンペ報告
 - 8頁 同窓の集い案内(2)
幹事会報告
春のゴルフコンペ案内
編集後記
- ③ 組織委員会(佐藤委員長出張のため)海老根氏からの報告
返送された会報の整理を来月行います。
- ④ 財務委員会(桑原委員長病欠)三ッ石氏より報告
年度別会費納入状況資料配布。入力作業も行われた。
各学年で納入促進を行ってほしい。

4. その他

- ① 平成22年新年会 佐渡本事務局次長
平成22年1月24日(日)17:00～19:00
「ホテルメトロポリタンエドモント」

● 第7回 幹事会・忘年会

- ・ 12月16日(水) 西日暮里・東京知道会事務所 午後6時30分から
発信者 幹事長 谷田海孝男
事務局長 植村滋